

シリーズ第11話

口腔外科の病気あれこれ

口は、言葉を発し、また食物の入り口でもあるためとても重要な場所です。口腔外科では、口腔内にできた炎症や、あご・顔面の外傷、腫瘍などの診断、治療を行っています。

今回は、口腔外科の病気や治療の中で皆さんに知っていただきたいものをいくつか紹介します。

【埋伏歯、親知らず】

歯が、歯肉やあごに埋まっているものを埋伏歯といいますが、埋伏歯があるため、永久歯が生えてこなかったり、歯並びが悪くなったりします。埋伏歯の一部が露出していると、その歯のまわりが不潔になりやすく、炎症を起こすなどの障害が起きます。

また、親知らずの炎症は、柔

らかいもの主体の食生活で、現代人のあごが段々小さくなってきていることが原因とされ、歯の生えるスペースが狭く、ほとんどの親知らずがまともにも生えることができなくなっています。

親知らずが原因の炎症は治りにくく、骨膜炎（あごの骨の表面に炎症が起こり、痛みや腫れ、発熱などを引き起こす）や、隣接する歯まで虫歯になることがあります。

埋伏歯、親知らずのいずれも無症状であれば緊急性はありませんが、できるだけ早い時期に抜歯や開窓術を行うことが望まれます。

【外傷】

外傷で顔を傷つけた場合は、顔の縫合術を行います。その時、顔の骨が折れた場合は、骨折部

をプレートで固定します。最近では、吸収性のプレートもよく使われるようになりました。また、歯の脱臼などに対しても整復、固定を行い、正しい噛み合わせを回復させます。

【口の中の腫瘍】

口の中にできる腫瘍には、良性の軟組織腫瘍、エナメル上皮腫や、悪性の舌がん、歯肉がん、唾液腺がんなどがあります。

口の中にできるがんは、がん全体の2パーセントと少ないですが、直接生命に関わるという重大な病気であることには違いありません。口唇がんのように転移の極めて遅いものから、舌がんのように転移の早いものまでさまざまです。また、口腔という場所柄、手術により摘出され、がん自体は治療できたとし



新城市民病院
歯科・口腔外科
部長医師 堀内隆作

ても、食べることや話すことなどに影響が出て生活の質を低下させることがあります。

がんの一般的な初期症状は口腔に硬いしこりが触れることが多く、口内炎がなかなか治らないという場合も要注意です。舌がんは、舌の先端や中央部より脇の部分にできることが多く、こすっても取れない白い斑点や赤いただれなどが現れます。

口腔にできた傷や口内炎が治りにくい時や、鏡などで観察して違和感を覚えた時など、ご心配なときは早めの受診をお勧めします。

